

IT時事ネタキーワード「これが気になる！」(第119回)

注目集まる家庭用実用ロボット。AIの進化でより実用的な段階に

2023.03.31



米ラスベガスで年の初めに開催される世界最大のテクノロジー見本市「CES」は、毎回、大手企業がハイテク機器の新製品を発表・展示する。今年のCES 2023は、3年ぶりの本格的なリアル開催となり世界中から3200社以上が出展した。

アマゾン「Astro」など家庭用実用ロボが大注目

近年、CESで注目されるものの一つとして挙げられるのがロボットだ。CESは、大企業はもちろん小規模な新興企業が最先端のロボティクス技術を披露する場でもある。今回も多くロボットが出展され注目を浴びていた。その中でも多くの人が集まっていたのが米アマゾンのブースだ。

アマゾンは、2021年に音声アシスタント「Alexa」を搭載して動く家庭用初のロボット「Astro」を発表、家庭内を歩き回れる車輪を搭載した「動くAlexa」として話題を呼んだ。Astroは、潜望鏡型カメラや荷台などを備え、家庭やオフィスの監視、ペットや高齢者の見守りや遠隔監視、人とのコミュニケーションのほか、飲み物を運んだりもできる。

アマゾンは、「[The 9 best things Amazon announced at CES 2023](#)」の一つに「Amazon Astro meets CES」としてAstroを挙げている。今年、アマゾンは初めてAstroをCESに持ち込み、ライブデモで実物およびその強化された機能を紹介する、と述べていた。

実はこのAstro、米国内に限られたユーザーのみの販売にとどまり、商品としては試験的な位置づけで一般販売は行われていない。コロナ禍で見本市がリアル開催されなかったこともあり、リアルで行われる初のAstroのデモに多くの人が集まった、というわけだ。Astro販売後も、例えば、昨年、ペットの認識機能を追加するなどアップデートを重ね、意欲的に開発を進めている。アマゾンはAstroをユーザーの生活や習慣を理解し手助けする家庭用パートナーとして進化させようとしており、今後の注目だ。

日本発の「カチャカ」にも期待。ルンバに似た本体が家具を動かす「逆転の発想」… 続きを読む